

# 希少動物モニタリング



# 希少動物モニタリング

## 1 トウホクサンショウウオ

利根沼田地域の一つの沢を調査地としたトウホクサンショウウオ *Hynobius lichenatus* の生息確認調査を本種の繁殖期に実施した。成体7個体、卵囊26対を確認した。幼生は確認されなかった。

(山崎 陽平・金井 賢一郎・中澤 和則・森口 一)

## 2 ホトケドジョウ

今年度（令和3年度）、相澤は中部地域の中・小河川計7地点で口径30cmほどのタモ網による生息確認調査を行った。そのうち、3地点でホトケドジョウ *Lefua echigonia* を確認した。得られたのは合計で33個体であった。ある地点では体長組成から複数年にわたる繁殖が示唆された。しかし、他の地点では見つからなかった。松井は、中部地域の2河川計17地点で調査を行った。いずれの地点でもホトケドジョウは確認できなかった。

(相澤 裕幸・松井 裕之)

## 3 アオハダトンボ

アオハダトンボ *Calopteryx japonica*（トンボ目カワトンボ科）は、主に平地から丘陵地の抽水植物や沈水植物が豊富な、砂底の河川中流域に生息する。2019年の台風19号により、県内の河川、特に西部地域の河川は増水で植物が流出、2020年の調査ではほとんど確認できなかった。このため、過去に本種が確認された河川を中心に、河川の植生の復旧の様子及び生息状況の確認を目的として調査を行った。

今年度の調査は、生息記録のある14河川について、27回実施した。本種が確認できたのは6河川（西部地域6河川のうち2河川、東部地域4河川のうち3河川、利根沼田地域1河川）であった。今回確認されなかった河川については、台風による環境急変以外に、河川改修などの開発行為も考えられるので、今後も継続的に調査を進めたい。

(岡崎 太郎・荒井 堅一)

## 4 コオイムシ科昆虫

タガメ *Kirkaldyia deyrolli*、オオコオイムシ *Appasus major*、コオイムシ *Appasus japonicus* が対象種である。

タガメは、東部地域で捕獲したとの情報が複数寄せられた。

オオコオイムシは、これまで情報はあったが、生息が確認できなかった利根沼田地域の湿地で、6月に成虫、幼虫を多数確認した。また利根沼田地域の前記と別の湿地でも6月～10月にかけて成虫、幼虫を多数確認した。

コオイムシは、西部地域のA市で3月に成虫10個体、7月に成虫1個体、B市で6月に成虫2個体（1個体は卵を背負う）、7月に成虫1個体、利根沼田地域で8月に成虫1個体を確認した。

相澤裕幸氏から9月と10月に中部地域の2つの地点で各1個体を確認したとの情報をいただいた（写真から2個体とも成虫と判断できる）。

(峰村 宏・宮原 義夫・土屋 清喜・茶珍 護・斎藤 晋)

